

江戸後期の「椿井文書」

時代選ばぬ「フェイク拡散」

「椿井文書」と呼ばれる史料を耳にされたことはあるだろうか。江戸後期に作成され、現代の一部の自治体にも対応を迫る偽文書のことだ。その特別展が、19日まで大阪大谷大博物館(大阪府富田林市)で開かれている。インターネット社会の副産物としてフェイク情報の拡散が深刻化するが、会場に足を運ぶと、ネットがない時代から市民や公的機関を欺く偽文書が存在し、フェイク情報が社会に拡散・定着していく共通の構造が読み解ける。

近畿各地に1000点以上

特別展を企画した中京大の馬部隆弘教授(3月まで大阪大谷大准教授)によると、椿井文書を作成したのは椿井政隆(1770~1837年)。山城国椿井村(現在の京都府木津川市)



馬部隆弘 中京大教授

の「国学者」で、1000点以上の系図や絵図、公文書などの偽文書を作成したという。今も旧家や寺社に眠る文書を含めれば数は増える見通しだ。



大阪大谷大博物館で展示されている「椿井文書」

文書の多くは寺社や地域、一族の格などを高めるために、著名な寺社や人物に関連付けて「現在は農民だが、かつて先祖は有名な寺社を守った武士だった」といったルーツなどを偽る内容のものが多く、土地の所有権を巡って係争中の寺社や村の片方が有利になるような偽資料も見つかっている。椿井文書は数の多さだけでなく京都や滋賀、奈良、大阪などに広くまたがって残ることも特徴という。「多彩な筆跡や文書の製法を

国学者の「戯れ」今や「文化財」

駆使し、本物の史料と関連付けたり、原本を何度も模写したと主張したりと、見抜かれにくくする工夫も凝らしていた」と馬部教授。作成に当たった調査活動と配布は知識人が多い都市部を避けて看破されるのを防ぎ、由緒を伝える文書は検証が困難な中世以前のものでして作るか、足利家や豊臣家のように権勢を失った一族を利用するなどしていたとみている。

質流れ「名士」が転売

なぜ、椿井文書は近畿に広く残るのか。馬部教授によると、椿井が死んだ後の明治期に、跡を継いだ息子が経済的に困窮。大量の偽文書を賣入れし、所有権を得た地域の名士がこれを第三者に次々に販売したことが影響しているという。

ここにはネット上で現代のフェイク情報が拡散する際と共通する典型的なパターンが垣間見える。信用性や知名度のある第三者を介して間違った情報が拡散されるという構造だ。ツイッターなどで虚偽情報が拡散される際、知識人や著名人が間違っていたらその内容を



歴史資料の複製品を展示している絵図面。いずれも大阪府富田林市で、梅田麻衣子撮影

指定解除検討開始も

椿井文書は明治期から一部の寺社や富農らが格や身分を上積みしようという動きが出る中で、地域や個人の利益、自説の主張の補強につながるケースなどで、疑わしくとも都合がいいからと受け入れられていったとみられる。

一方、戦前から歴史学者の間では信頼性を疑う声も根強くあったが、本格的な研究や検証は継承されなかった。そのため、これまで数十の自治体史で椿井文書が肯定的に引用されたほか、町おこしに活用され、観光資源や指定文化財になってしまった例もある。滋賀県湖南市では合併前の旧甲西町時代に、椿井が模写したとする絵図が1972年に町の指定文化財となった。絵図の巨大なモニュメントも作られたが、2022年に指定を解くべきか検討を始めた。馬部教授は「椿井が生きた当時の歴史学では、複数の史料の間を想像で埋めるのは珍しいことではなく、偽文書はどの地域でも見られる」と前置きした上で、一部の自治体に椿井文書が浸透した理由として「偽文書を見抜けず、根拠が疑わしい文書でも地域住民の町おこし運動

には水を差しにくい事情もあった。フェイクの歴史には行政がだまされたいようにするには、歴史学者などの専門家に相談できる体制づくりが必要」と訴える。「国学者」でありながら後世に混乱をもたらす文書を大量に残した椿井だが、馬部教授は現代のネット上に悪意を持ってフェイク情報をばらまく類いの人物とはひと味違ったとみている。馬部教授によると、椿井文書には空想の街並みなどで作られた絵図面も見られるほか、費用のかさむ絵の具がふんだんに使われている。椿井の存命中に偽文書が販売された確実な記録は1例しかなく「生活費を得るための仕事として作っていたとは考えにくい」というのだ。実在しない元号と日付の組み合わせを記した例もあることから、椿井が偽造を追及された際「戯れに作った」と弁解できるようにしていた可能性もあるという。「実益も兼ねた趣味だったのではないか。後世にここまで文書が拡散されたら知らず知らずのうちに偽物とわかるように作ったのになあ」と笑うかもしれないと指摘する。今回の特別展は「椿井を偽文書を作った悪人ではなく、おちゃめなところもある面白い人として見てもらいたい」と話す。【野原寛史】